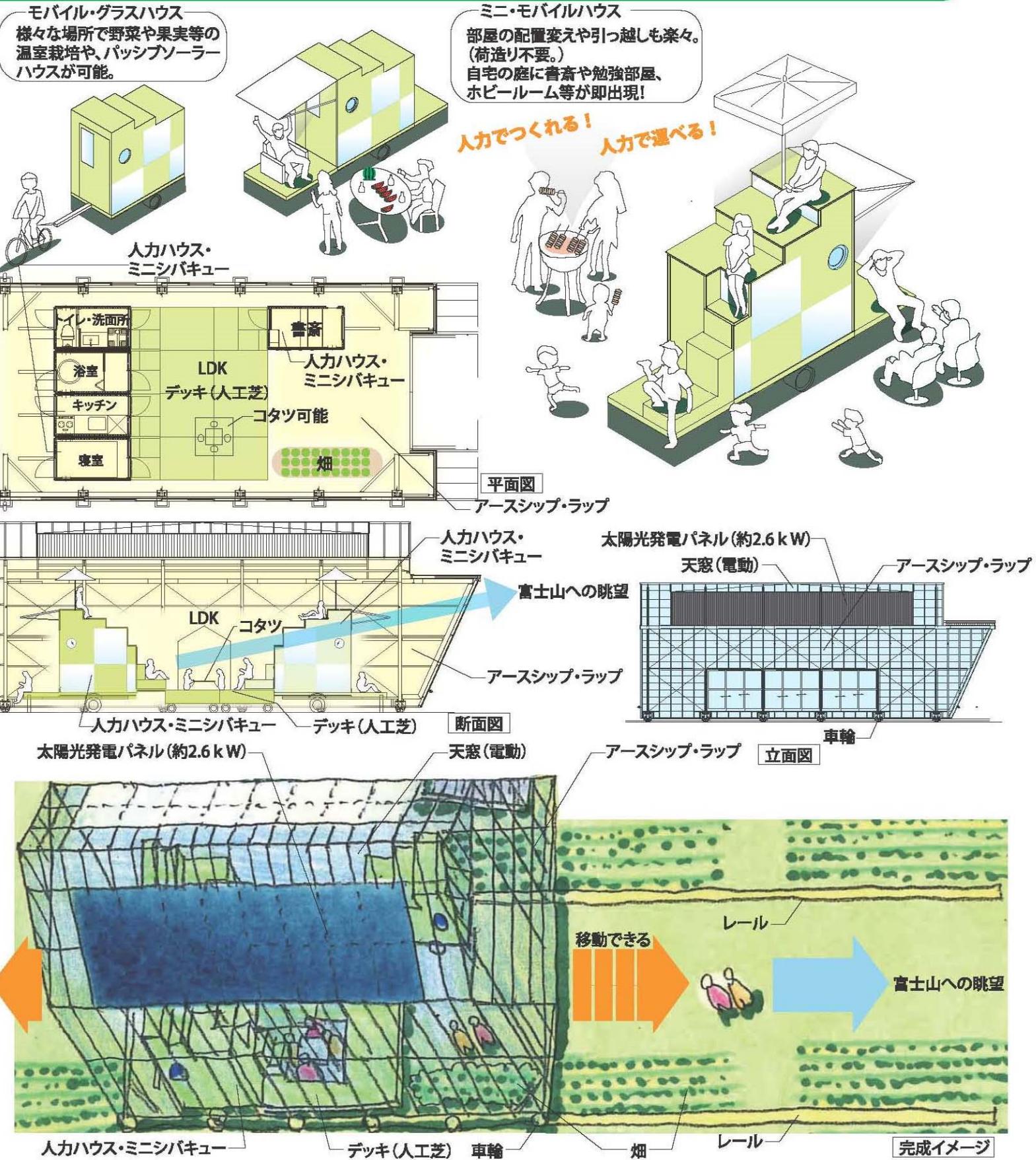


Mobile Glass House + Mini House 『組合せ自由! 住家風セット』

先行予約販売開始!

アースシップ・ラップ EARTH SHIP・WRAP (モバイル・グラスハウス) ブラス 人力ハウス・ミニ シバキュー (じんりきハウス・ミニ芝丘) (ミニ・モバイルハウス)



I ioka Cafe

いいおか復興観光市民カフェ

ミレニアムシティでは、あさひミレニアムシティの地元であり、東日本大震災の被災地でもある千葉県旭市飯岡地区で、市民の意見を聞きながら復興まちづくりについて考えるため「いいおか復興観光市民カフェ」を開催しました。これは平成24年9月2日から平成25年3月9日まで、6回にわたり行ったもので、延べ212名の方にご参加いただきました。また、仮設住宅をまわってのヒアリングも行い、25名の方から貴重なご意見を伺うことができ

ました。
その結果は、①被災地の活性化、②高齢者の買い物環境、③支えあう仕組み、④観光の活性化、⑤地域の活性化、⑥飯岡荘の復興というテーマにまとめることができました。成果品については、旭市長を始め旭市役所にも報告しました。
これまでの成果を無駄にすることなく、今後の展開につながるように、検討中です。



1 市民カフェの経緯

この「いいおか復興観光市民カフェ」は、平成24年5月～平成25年3月までに行われた「いいおか復興観光まちづくりコンペ」に合せて企画されたものである。「いいおか復興観光まちづくりコンペ」は、「いいおか津波復興プロジェクト」が主催して全国に向けて飯岡の復興のアイデアや計画案を募集したものである。しかし、民間団体の主催であり、その結果が復興まちづくりにどう活かされるかについては未だ未定である。一方、このコンペでは市民審査が予定されており、市民の参加を促していくことが特徴となっていた。

市民審査を行うには、応募作品を読み解く力があることに合せて、自分なりの復興のビジョンを持っていることが必要だと考えられる。そうでないと、ビジュアルのきれいな作品や現実から乖離した作品が選定されてしまう恐れが懸念された。そこで、市民が各自の復興まちづくりのビジョンを思い描くことができるよう、市民向けのワークショップを行なうところだ。

このような準備で市民カフェが始められた。当初は、多くの市民を集め、ある程度固定されたメンバーを中心にしてワークショップを行い、復興まちづくりのビジョンを一緒につくるという目論見であった。しかし、人集めや広報を組織的に行なう体制をつくることができず、会場である飯岡保健センターの利用者を中心に行なうことになった。そのため、毎回、いろいろな意見や感想を聞いて、それを取りまとめるというワークショップを行うことになった。当初の目論見と違った形になつたことは残念であったが、被災者や近隣の方、また、旭市全域の方々など、のべ200人以上の市民の声を聞くことができたことは大きな成果であった。

一方、復興まちづくりでは、被災者の意向を聞くことが非常に重要である。そこで、第1回から事前に仮設住宅をまわって室内チラシを各戸配布した。しかしながら、市民カフェに仮設住宅の住民の方はあまりたくさんおいでいただくなかった。特に、飯岡仮設住宅は飯岡保健センターに隣接しているからおいでいただいた方は少なかったのは、被災者の心情によるところが大きいと思われる。こういったところにも精神的な壁があり、私達もその壁を作ってしまったことを反省しなければならない。仮設住宅のチラシ配りでは、在宅の方には直接手渡し、生活の様子や今後計画などを伺ながに行なったが、第5回、第6回市民カフェの当日の午前中からは、案内チラシを配布しながら、在宅の方への個別ヒアリングを実施した。

